

PCR検査の思い切った拡充を

感染者減少の今こそ 共産党志位委員長

日本共産党の志位和夫委員長は記者会見で、新型コロナウイルス新規感染者の減少に伴うPCR検査の減少を「強く危惧している」として、「検査のキャパシティー（能力）に余裕があるいまこそ、検査の思い切った拡充でコロナを抑え込むように注力すべきだ」と主張しました。

無症状感染者が広げる

新型コロナウイルスの特徴は、無症状感染者が感染を広げることです。日本共産党は、早くから下記の3つの提案を掲げています。

今後、ワクチン接種が進んでも、感染が収束するまでには長い時期がかかるというのが多くの専門家の見解であり、感染力の高い変異株、抗体の効かない変異株の出現も警戒が必要です。「しんぶん赤旗」の調査では、18都府県で高齢者施設などでの社会的検査を開始しています。今こそ検査を強めるよう政府に求めていきたいと思います。

コロナの収束へ、いま大事な3つの提案

- ①PCR検査の拡充、無症状者を把握・保護する積極的検査戦略—感染集中地域での大規模検査、医療機関などでの全額国費による社会的検査、宿泊療養施設を借り上げ、陽性者保護を。
- ②医療機関と医療従事者、保健所への支援を抜本的に拡充する。すべての医療機関への減収補てん、保健所の臨時的な人員強化。
- ③自粛要請は、感染抑止を実効あるものにするためにも十分な補償とセットで行うこと。持続化給付金や家賃支援給付金の継続「GoTo」に1兆の使用やめ感染防止に注力を。



検査数は1月から半減

全国のPCR検査数は、1月14日の9万余件から2月9日には4万4千件と半分以下に減っています。この1年間をみても新規感染者数が減少したときに検査数を減らしてしまい、感染抑え込みをはからなかったことが、第2波、第3波を招いてしまった教訓であり、志位委員長は、

立花俊治 飛び歩記



1月15日、臨時市議会が開催され、高校生に1万円、中学生以下に5千円が給付される「子

予算補正とコロナ対策申し入れ

育て世帯応援給付金」2億8千万円と11月に実施されたPaypayを利用して買い物をすると5千円が還元される「緊急経済対策市内店舗応援事業」1億6千万円が計上可決されました。

また、ワクチン接種にかかる予算が6千7百万円計上されました。一方、テナントで営業をされている方に対して10万円を支給する小売業・飲食店

等維持支援事業補助金がコロナ禍が収束していないのに1億2千万円削減されました。

そして、緊急事態宣言は14日発令を受けて加古川市議団としてPCR検査の拡充と飲食店に限定せず、納入業者や他業種にも対象を広げた経済支援事業を行うこと、福祉・公共サービスの縮小（小さな政府、民営化）と、大幅な規制緩和、市場原理主義の重視を特徴とする新自由主義からの転換を政府に求めるよう要望書を提出しました。

核兵器禁止条約が発効 記念宣伝行動

1月22日に、核兵器禁止条約が発効しました。加古川駅前で行った記念宣伝が取り組まれました。主催は加印原水協です。



ミニかこバス土山ルート運行開始

初日に乗ってみました（土山・大西）

2月1日、ミニかこバス平岡東ルートの運行が始まりました。早速、土山駅南口発イオンタウン東加古川行きの第3便に乗ってみました。

乗客は私一人で定刻に出発、途中の停留所には待っている人がおらずノンストップで終点に到着。運転手さんにお聞きすると、「1便の利用者はお2人でした」とのこと。

土山西で「かこバス早く実現を」と言われていた方にお聞きすると「夫婦で播磨病院に行くとき利用した。便利でありがたい」と言われていました。



イオンタウン東加古川で

加古川に新しい橋

加古川に新しく橋を架ける工事が進んでいます。

橋が架かるのは、加古川大橋と池尻橋の中間を通る、市の都市計画道路「神古中津線」です。場所は水管橋の南側になり、現在、橋桁の工事を行っています。「神古中津線」は「中津水足線」に繋がり、



加古川橋も拡幅

国道2号線の加古川橋も、兵庫県が現在の橋の北側に新しい橋を建設中です。新しい橋が完成すると現在の橋も架け替え、上下2車線ずつの4車線化します。